

南あわじ市 平成 21 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 319

事業名	老人大学うずしお学園補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3005			項	社会福祉費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	老人福祉費・3目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり__元気あふれ__住んで快適なまちづくり__			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命__[健康]			
	施策目標	高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(対象者をどのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 高齢者の生涯学習と介護予防に重点をおく。				
	団体の活動内容	(主な事業、具体的な活動内容等) ・一般教養講座年11回開催。 ・クラブ活動4クラブ・養成コース7コースにおいて高齢者の生涯学習。 ・淡路・県関係 学ぶ高齢者のつどい淡路ブロック大会・学ぶ高齢者のつどい中央大会に参加 (学ぶ高齢者のつどい親善グラウンドゴルフ淡路大会は、南あわじ市での開催を予定していたが、天候不良のため中止となる。)				
	団体の概要	(どのような人が団体の構成員となっているか、構成員の内訳等) 南あわじ市内在住で60歳以上の者により結成された団体で、各自治会ごとクラブ養成コースごとに世話人をとっており、世話人会役員構成人数は34名である。 また、運営委員会を設けており、構成メンバーは、各旧4地区老人会長と世話人会の三役・長寿福祉課課長・生涯学習文化振興課長・長寿福祉課担当2名・生涯学習担当1名の計12名である。				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (長寿福祉課)	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ()	<input type="checkbox"/> 旧村単位 ()
	補助金算出根拠	一般教養講座講師料及びクラブ・養成コース運営費の一部としている。				
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併後、旧広域事務組合より継続。					

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)	600	600	600	600	600
	老人大学うずしお学園補助金	600	600	600	600	600
	事務局事務費(市が事務局の場合)	0	0	0	0	0
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	600	600	600	600	600
	人件費(正規職員)[B] (千円)	1,495	1,505	1,395	1,410	1,410
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	28.2	28.2
	事業量1(事業に要した日数)	50	50	50	50	50
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	2,095	2,105	1,995	2,010	2,010
経費に関する 補足説明						

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 高齢化社会の中、一般教養講座・クラブ・養成コースを通じて、個人の学習意欲を高めるとともに相互親睦を高めることができることにおいて、健康で豊かな老後生活を送る手助けとなっている。				自己評価 (5点評価)
					4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	自己評価 (5点評価)
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) いまなお高齢化が進む中、高齢者の生きがいを感じる手助けとなっているため、必要性は高い。				
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 年11回の一般教養講座・クラブ及び養成コースに参加することにより、豊かで生きがいのある老後生活と介護予防に役立っている。実際に、クラブ講師をボランティアで務められ、健康・福祉の増進に寄与されていることから、兵庫県高齢者特別賞被表彰者として推薦されている受講生もおられる。 以上のことから、今後も必要な団体である。				<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成22年度にできる改善・改革	平成23年度以降にできる中期的な改善・改革
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
今後の方向性とその理由	<p>市全域を対象とした学ぶ高齢者のための活動であり、豊かで生きがいのある老後生活と介護予防のためにも、受講生に満足していただける講座内容の工夫と経費の節減による事業の効率化に努めて頂きつつ、今後も運営に対して支援していく。</p>	同左。
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>高齢者の交流の場がなくなることにより、生きがいづくりの場が無くなる。</p>	